

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570706671		
法人名	特定非営利活動法人 エヌピーオー社会福祉事業振興会		
事業所名	グループホームすずらん湯沢		
所在地	秋田県湯沢市元清水二丁目5番20号		
自己評価作成日	平成31年 1月 30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成31年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者本人のADLを理解し、自分でできることは続けてもらう。また、その方の個性を理解し、得意なことや、好きなことを積極的に行ってもらいADLの維持に繋げている。</li> <li>・職員が料理の得意な人が多く好評</li> <li>・利用者との関係性が良い</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員の補充が困難な時期が続いていましたが、経験豊かな職員を中心に利用者の心身機能の維持に努め、生活のペースを崩すことなく安心して暮らし続けられるよう取り組んできました。以前入居していた利用者の家族がホームを訪れることもあり、家族の思いも大切にしながら利用者の生活を支援してきたことで職員と利用者、家族の良好な関係性を窺うことができます。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者の</li> <li>2. 利用者の2/3くらいの</li> <li>3. 利用者の1/3くらいの</li> <li>4. ほとんど掴んでいない</li> </ol>	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族と</li> <li>2. 家族の2/3くらいと</li> <li>3. 家族の1/3くらいと</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎日ある</li> <li>2. 数日に1回程度ある</li> <li>3. たまにある</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ毎日のように</li> <li>2. 数日に1回程度</li> <li>3. たまに</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大いに増えている</li> <li>2. 少しずつ増えている</li> <li>3. あまり増えていない</li> <li>4. 全くいない</li> </ol>
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての職員が</li> <li>2. 職員の2/3くらいが</li> <li>3. 職員の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族等が</li> <li>2. 家族等の2/3くらいが</li> <li>3. 家族等の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき個人目標を立て、定期的に確認しながら意識付けを行い実践に繋がっている	法人理念と共にホームの目標が設定されています。年度毎に職員が個々に目標を設定し、業務を振り返る機会をつくって実現に向けて努力しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の野菜を頂いたり、使用しなくなった介護用オムツなど届けて下さったりと交流がある。天気の良い日は、利用者の散歩や買い物で挨拶を交わし顔見知りになるよう出かけている	ホームの行事を通して、また、周辺を散歩し、地域の方が利用するスーパーが近いことから一緒に買物に出かけて日常の中で地域の方と関わりが持てるように努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の方を交えての避難訓練では、いざというとき協力を得られるよう、認知症の特徴や歩行状態、介助方法などお伝えしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	客観的な意見、職員では気付かなかった方法など様々な意見が頂けるため、実際のサービスに繋がっている	行政、民生委員、町内会から参加に加え、時には交番からの参加もあって情報や助言をサービスの向上に繋がっています。町内の防災や雪への対策等も話し合われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年間通して事あるごと相談している。会議では事業所の取り組みを報告、都度指摘をもらい、向上に努めている	研修への参加の他、必要に応じて行政と連絡を取っています。生活保護受給者が入居していることから担当職員との連携も図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センサーや施錠に関しても、毎日ミーティング時にカンファレンスを行い、その方の状態、意向に沿ったケアに取り組んでいる。命にかかわる危険な場合は、一時的な施錠の活用も頭に入れている	社内研修を行い、職員の理解に努めています。夜間、職員が1人の時のセンサーの使用についても検討事項としてカンファレンスで話し合いが行われています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士の意識や話し合いの他、虐待防止についての研修、アンガーマネジメントの講習会参加など、知識を深め防止に努める姿勢がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関する学習や研修、ミーティング等で触れ、理解に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者が十分な時間をとり対応、その他足りない部分や後の気づきに関して都度対応し理解に努める		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	支払い時や面会時など、来所の際近況報告とともに要望等伺える会話を心掛けている。運営推進会議へのご案内もあわせてお声掛けしている	家族からは任せると言われることが多いものの、コミュニケーションづくりを心がけ、利用者の状況を報告することで要望が引き出せるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的個人面談やミーティングの中で、意見、提案を集めている	職員同士意見が言いやすい関係にあり、代表への報告、相談も行われています。非常口のスロープを安全に使用できるように改善する等、職員の意見を反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家庭環境に合わせたシフトとなり、そのための協力意識も維持している。業務改善や資格取得のためにかかる費用の補助、各手当の導入に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修参加の機会を均等に設け、個々の得意分野は自信を持って実践に活かしてもらえよう意識向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム管理者ネットワークがあり、定期的な参加で意見交換や、講師を迎えた勉強会の開催など、全体の向上を目指している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント情報だけではわからない不安や要望、ご本人が表現できない部分を探り、寄り添う体制がある。ゆっくりできた時言葉にして下さることもあるので、そういった環境作りにも努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、アセスメントの段階だけではわからない不安や、後にででくる困りごとに対しても引き続き耳を傾けるよう努めている。電話や面会時も、時間の余裕がもてる雰囲気に対応している		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のペースを大事に、生活上難儀な部分をお手伝いさせていただいている。得意分野はどんどん活躍し、職員も知恵を借り、互いの生活をより良いものにしていく意識で関係づくりに努めている		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と過ごされる機会や時間には制限なく支援し、ホームでの生活の中でも家族の話題には必ず触れる会話をしている。報告書には近況のみならず、こちらからの相談や質問も行い、互いの立場からご本人にとってより良い環境作りに努めている		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同級会の参加へ、付き添いの友人へできる限りの見守りをお願いし、ご家族と施設と連携で連絡体制をとり参加実現している。近所の顔見知りや友人をお祭りに招くなど機会を設けている	利用者一人ひとりの暮らし方や家族の思いを大切にしており、墓参りや旧知の知人との交流等が続けられています。在宅時から図書館を利用していた方は、今では他の利用者も一緒に図書館に出かけています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を考慮しての席順や、その時々に合わせて職員がさりげなく間に入るなどし、関係性が維持、進展していくよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了はしても、利用者の今後が定まらなく不安を抱えたままにならぬよう引き続き連絡を取り合い、出来る限りの情報提供に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り希望をくみとり、ケアに努めている。また、普段の様子を見て、本当はどうされたいのか(本心)を考えている。	利用者一人ひとりの生活リズムの把握に努め、日常の関わりをアセスメントに繋げています。情報共有を図り、日々のケアに反映させています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント情報だけでなく、四季を通じての情報や、居室での寝具の向きなど、都度家族へ確認し、なるべく落ち着いて過ごせるよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方についても同様に言い、ペースをつかみ安心を図っている		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや申し送りで絶えず情報共有している。誤った認識があれば伝え合い、個人も伝えやすい雰囲気作りをしている	生活リズムシートで介護計画に沿った支援を確認し、気付いたことも併せて記入しています。担当職員を中心にして毎月モニタリングを行い、管理者が介護計画にまとめ、家族へも説明しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気付きは記録に残し、現場にいなかった職員は必ず目通しできるよう、日誌記録にも重ねて残す。最後は言葉でニュアンスを伝え確認し、実践や見直しに繋げている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前から使っていた消耗品を馴染みの店で購入したり、通っていた図書館へも継続で本を借りに出かけている		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医へ継続でそれぞれ受診している。時間外や緊急時以外は、電話で相談など、早めに判断を仰ぐよう努めている	個々の希望に応じて支援しており、それぞれのかかりつけ医で受診しています。受診介助は職員が行っていますが、家族が対応されることもあります。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内看護師はおらず、訪問看護も利用していない。受診時は医師だけでなく、看護師のアドバイスも仰いでいる		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はスタッフ交代で面会へ行き、記録の記入、申し送りなどで情報共有している。退院支援看護師と連絡を取り合い、退院に向けて必要な働きかけを継続するよう努めている		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階を踏んでいくにつれご家族のお気持ちを再度確認しながら大切に、状況をこまめに伝えることで心の準備も図っている。出来る限りお気持ちに添った支援に努めている	これまで看取りは行なっておらず、できる限りの支援を行うことを説明していますが、ホームでできる支援の限界も伝えて理解していただけるように取り組んでいます。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による救命講習の定期的な訓練、指導を受けている。ヒヤリハットや事故報告書から、対策の検討、振り返りを行い今後の対応に繋げている		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方との合同で行う避難訓練時、一緒に反省会を行い、避難させる側(職員)だけでなく、協力に来てくれた方目線の注意点なども指摘、共有している	夜間想定訓練を実施し、食料、飲料水も備蓄しています。非常口のスロープは緩やかなものに設置し直し、手すりを同時に設けてより安全に使用できるように改善されています。	季節や天候に応じた避難場所を確保すると共に、夜間職員が1人の時の地域を含めた支援体制を見直し、訓練を積み重ねていかれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	現場に立つ時点で心構えとして持ち、一人一人が気持ちよく過ごせるよう努めている。また、これでいいと思わず、今の声掛けはよかったのかと振り返り、声色や顔色をつかみ、試行錯誤している	排泄時には自分でできるという気持ちに配慮し、さりげないケアを行っています。その人毎の状態やペースを大切にしています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	問いかけに対して「何でもいい」「どれでもいい」といった返答がある。なるべく選びやすい質問の仕方や、本心を引き出そうと対応している		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ本人の生活ペースを崩さないよう、思いをくみ取りながらの支援に努めている		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	会話の中で好きな色などについて聞き、更衣時に取り入れて促したり、朝のヘアセットやTPOに合った装いをしていただけるよう支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物に同行したり、野菜切りや盛り付けなど一緒に行っている。自分が関わった食事を皆で摂り、喜んでもらうことが喜びとなるよう配慮している	野菜の苗を植え、水やりから収穫までの一連の作業を通して楽しみに繋げています。外食の機会を設け、季節の行事に合わせた食事を提供して喜んでいただけるよう支援しています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その月の体重変化や体調を考慮し、時には減らし、時には勧め、バランスよく摂っていただけるよう心掛けている		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ブラッシングについてOJTで話し合ったり、口腔ケア時に本人の口腔内の状態把握をし、適切なケアができるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録の記入を利用し、排せつのパターンを探りながら、個々の性格、羞恥心に配慮した対応を心掛けている	生活リズムシートに排泄状況を記録し、その人のパターンに応じた介助をしながら対応を検討し、失禁の軽減に繋がっています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄リズムの把握、朝後のトイレ誘導、腹部マッサージ、ヨーグルトの日を設けるなど、まずは薬に頼らない自然な排泄への取り組みをしている		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々のこだわりや要望を理解し、それに寄り添った対応、入浴予定を組んでいる	週2回を基本としていますが、共用デイサービスの運営をしていることから日曜日以外はいつでも入れるようにしており、その時々々の気分や要望に応じて曜日や時間を変更して対応しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠る際の好みの明るさ調整、寝具の調整をしている。夜間しっかり眠れているか把握し、昼寝が長引く時は頃合いを見てお声掛けし、睡眠リズムが整うよう支援している		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態変化による薬の変更など、受診後変更あった際は、内容の申し送りを速やかに行い、ケア変更の記録、周知に努めている		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の得意なことや、好きなことを理解し、機会あるごとに触れてもらう働きかけや、設定を行い支援している		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の場面によっては、外出することで気分転換になりそうな方がいたら、都度対応するよう心掛けている。気持ちが家族含むことであれば、家族への働きかけ、声掛けをしている	家族との外出も支援しており、法人の行事や季節の花を見に出かけたり近隣を散歩したりして気分転換を図っています。買ってほしいものを依頼された時は本人を誘い、一緒に出かけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族ご理解の下、自分で財布を管理されている方もおり、所持していることで安心感をもっていただけるよう、自己管理できるよう支援している		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	制限などはなく、要望に応じて対応している。字を書くのに自信がない利用者さんにも寄り添い、少しのお手伝いで全員の方が、家族へ年賀状を送っている		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレには空気清浄機を設置し、即効性のあるスプレーも対応している。共有スペースでは季節に応じた装飾をし、共に飾りつけをするなどして楽しんでいる。	横になって休めるように畳スペースに炬燵を置いています。感染症対策として空気清浄器や加湿器を設置し、洗濯物を見た目に配慮し、干し方に工夫をしています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士過ごせたり、逆に一人の時間がほしい時を見極め配慮したり、あえて職員の中に招き発言しやすくしたりと、臨機応変な対応に努めている		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、なるべく自宅で使用していたものを持ち込んでいただき、馴染みややすさを心掛けている。勝手に掃除したり、物移動したりせず、混乱のないよう注意している。ご家族の写真や、プレゼントの花やぬいぐるみを置き、会話の際触れるようにしている	馴染みの家具や家族の写真、好きな本等を置き、それぞれが個性のある環境の中で生活しており、濡れタオルや水を入れた容器を安全な場所に置いて乾燥防止に努めています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	水やりを含めた鉢植えの花の管理や、花を生けたり、広告でゴミ箱を折り業務内で使用しているなど、それぞれ何らかの役割をもって過ごせる支援をしている。継続が難しくなっても、別の活かせる分野を見つける話し合いをしている		